

管内と畜場における牛胆汁中のカンピロバクター (*Campylobacter jejuni/coli*) 保菌状況調査

千葉県東総食肉衛生検査所 福井聡子 吉野学 橋本亮 丸ひろみ
小野健司 片山雅一 酒井利郎

1 はじめに

カンピロバクター (*Campylobacter jejuni/coli*) (以下、Cj/Cc) は代表的な食中毒起因菌である。近年、と畜場の調査において牛の胆汁等から Cj/Cc が分離されることが報告され、公衆衛生上重要視されている。そこで、今回我々は管内一と畜場に搬入された牛の胆汁中 Cj/Cc 保菌状況を把握する目的で調査を行った。

2 材料および方法

- 1) 調査期間：春期 2006 年 2 月 13 日～3 月 16 日、夏期 2006 年 7 月 3 日～7 月 31 日
- 2) 対象牛：管内一と畜場に搬入された肉用牛 (黒毛和牛 32 頭、交雑種 67 頭、和牛 2 頭)
- 3) 材料：牛胆汁 (春期 50 個 / 12 戸、夏期 51 個 / 10 戸)
- 4) 細菌学的検査
増菌培養：CEM 培地、42℃、24 時間、微好気培養
分離培養：CCDA 培地、42℃、48 時間、微好気培養
薬剤感受性試験：110 株、一濃度多点法 (TC、EM、NA、NLFX、OFLX、CPFX)
血清型別：Cj38 株、Penner の方法

3 成績

- 1) 時期別分離状況：春期 80% (Cj40 頭)、夏期 60.8% (Cj29 頭、Cc2 頭)
- 2) 品種別分離状況：黒毛和牛 75%、交雑種 68.7%、和牛 50%
- 3) 分離戸数：春期 91.7%、夏期 100%
- 4) 薬剤感受性：耐性出現率 TC (68.2%)、EM (5.5%)、NA (23.6%)、NLFX (20.9%)、OFLX (19.1%)、CPFX (21.8%)
- 5) 血清型：A 群 (5.3%)、B 群 (21.1%)、C 群 (15.8%)、D 群 (42.1%)、F 群 (2.6%)、R 群 (5.3%)、U 群 (2.6%)、Z5 群 (5.3%)

4 考察

牛胆汁中から春期、夏期調査ともカンピロバクターが高率に分離された。分離されたカンピロバクターのほとんどは Cj であった。また、出荷農場のほとんどでカンピロバクター分離牛が確認された。これらのことから県内農場にはカンピロバクターが広く浸潤し、肥育牛は高率に胆汁中に Cj を主体とするカンピロバクターを保菌している事が推察された。県内と畜牛の主体をなす黒毛和牛と交雑種ともほぼ同じように高率に保菌していた。分離株の薬剤感受性をみると、TC に対して最も高率に耐性を示し、ニューキノロン剤に対しても約 20% の株が耐性を示した。血清型は B 群、C 群、D 群で約 80% を占めていた。同一農場でも複数の血清型が存在することから、農場への侵入経路は複数あると考えられた。これらの結果から、関係業者に対してあらためて衛生管理の徹底と、二次汚染防止を指導する必要があると考えられた。